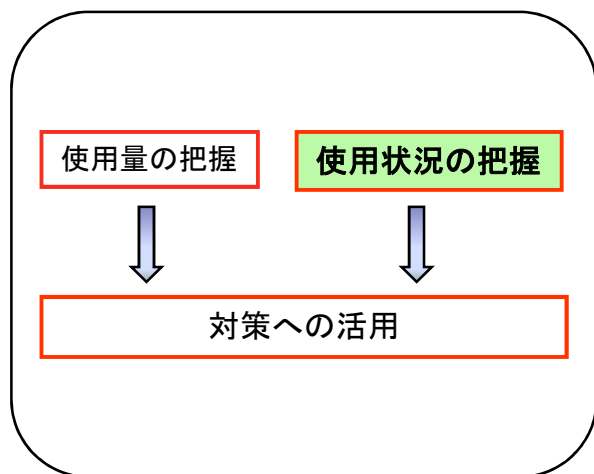


エネルギー管理の具体的な方法



使用状況の把握

「エネルギーの分かる化」、「データの蓄積」は、効果的な省エネの取組に不可欠！

○前年度比較



○過去データとの比較



○主要設備の使用状況把握



EMSの活用

※EMSにより、効率的な
エネルギー管理ができる

・エネルギー使用の傾向と効果を把握する

・前年度と使用傾向の違いを分析
(増加基調なのか減少基調なのか)

⇒増加であれば、労働時間、設備増、気象条件等の
影響か又は対策の取組み不十分と想定できる

・過去複数年にわたる比較・分析で、事業所の傾向をより
正確に把握し省エネ取組みの効果が確認できる

分析結果を踏まえ、現状の課題を抽出

↓
抽出した課題に対し、対策を検討

↓
課題と対策を全社で共有し対策を実施

↓
次年度の使用量を過去データと比較し、
取組の実施状況をチェック

・主要設備の運転状況を把握する

⇒効率的・効果的な省エネ対策の取組みが可能と
なる

☆省エネに対する課題が容易に把握できる

☆省エネの実施状況が何時でも容易に把握できる

☆その企業の実態に合った省エネ対策の実践が可能となる